

富士通株式会社

## 第115期 中間報告書

自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日

### 株主のみなさまへ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第115期中間期(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)の報告書をお届けするにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

代表取締役社長

山本正巳



当社グループは、前期に収益回復への道筋をつけ、平成28年度に向けた新たな中期目標として、「営業利益2,500億円」、「当期利益1,500億円以上」、「フリー・キャッシュ・フロー1,300億円以上」を掲げました。そのための成長戦略として、①企業向けICT領域の拡大、②新たなICT活用領域の拡大および③グローバルでのビジネス領域拡大を目指しています。

当期はこの成長戦略の実行を加速していく年と考えております。成長戦略の実現に向けて、商品力の拡充、新サービスの投入を急ぐとともに、新規領域への投資を上積みいたします。成長戦略の概要および当中間期までの主な取り組みにつきましては、P.3「平成26年度中間期のトピックス」をご参照ください。

成長戦略の実行の一方で、半導体事業などの構造改革も着実に進めてまいります。当中間期におきましては、システムLSI事業は、パナソニック株式会社および株式会社日本政策投資銀行との統合新会社設立につき正式契約を締結いたしました。また、三重と会津若松の製造拠点は、新会社に移管し、外部パートナーから資本参加を受けることにつきそれぞれ正式契約を締結いたしました。

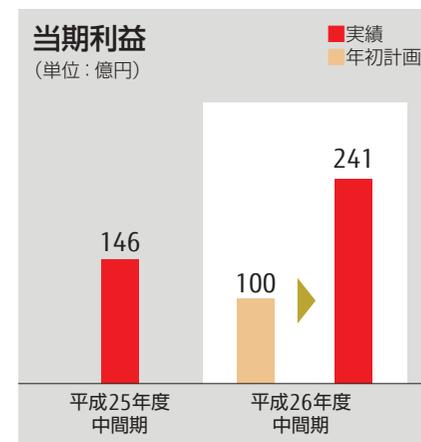
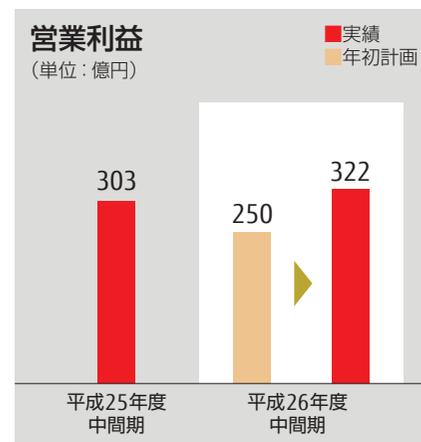
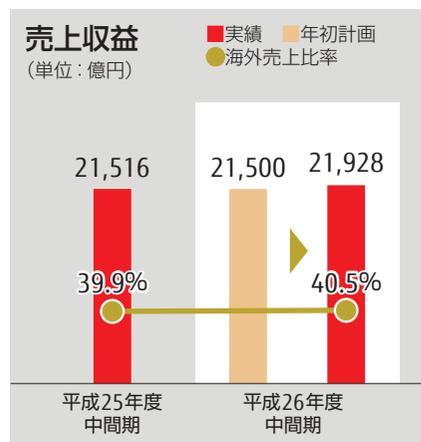
企業収益の改善などを背景に主に国内においてICT投資

が緩やかな増加傾向にある外部環境の中で、当中間期における当社グループの連結業績は、前年同期および年初計画を上回りました。売上収益は2兆1,928億円と、前年同期比412億円、年初計画比428億円の増収となりました。営業利益は322億円と、前年同期比18億円、年初計画比72億円の増益となりました。当期利益は241億円となり、前年同期比94億円、年初計画比141億円の増益です。詳細は、P.2「平成26年度中間期の連結決算概要」をご参照ください。今後も業績計画の達成に向けて成長戦略の実行を進めてまいります。

当中間期の配当金は、前期における諸施策の実施により、個別決算における財務内容が配当できる水準まで回復いたしました。今後の配当の継続性も考慮し、1株あたり4円の配当とさせていただきます。

今後とも、富士通グループはお客様のかけがえのないパートナーとして、ステークホルダーのみなさまとともに、さらなる成長を目指してまいります。株主のみなさまにおかれましては、なにとぞ倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年11月



\* 当社グループの連結財務諸表は、当年度から国際会計基準(以下、IFRS)を適用しており、前年度実績につきましても、IFRSに準拠して表示しております。なお、本報告書においては、親会社の所有者に帰属する当期利益を「当期利益」として表示しております。

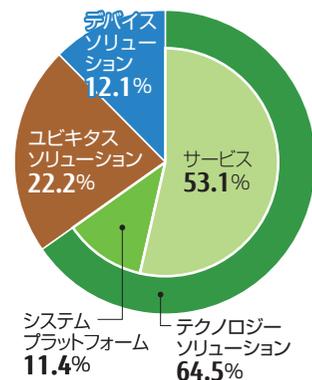
平成26年度中間期の連結決算概要 詳細は、当社ホームページ(<http://pr.fujitsu.com/jp/ir/finance/>)に掲載の「2014年度 第2四半期 連結決算概要」をご参照ください。

平成26年度中間期連結業績

決算ハイライト (単位：億円)

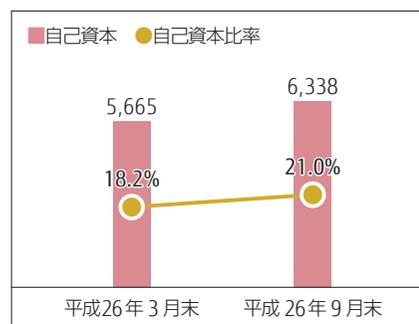
	平成25年度中間期	平成26年度中間期
売上収益	21,516	21,928
営業利益	303	322
当期利益	146	241
フリー・キャッシュ・フロー	△545	△47

売上比率



\* 売上収益はセグメント間の内部売上収益を含みます。

自己資本比率 (単位：億円)



\* 自己資本比率は、自己資本÷資産合計により算出しております。なお、自己資本は、利益剰余金、資本金、資本剰余金、自己株式およびその他の資本の構成要素で構成されております。

平成26年度業績見通し

(単位：億円)

セグメント	平成25年度実績	平成26年度予想
テクノロジーソリューション	32,430	33,200
コピキタスソリューション	11,254	10,400
デバイスソリューション	6,002	5,900
その他／消去又は全社	△2,063	△1,500
合計	47,624	48,000
テクノロジーソリューション	2,330	2,380
コピキタスソリューション	△268	70
デバイスソリューション	115	240
その他／消去又は全社	△705	△840
合計	1,472	1,850
当期利益	1,132	1,250
フリー・キャッシュ・フロー	475	800

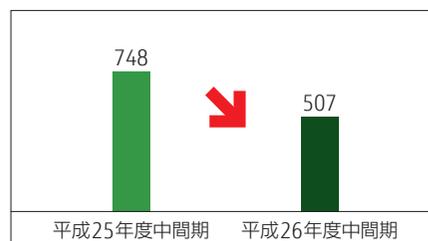
売上収益

営業利益

\* 売上収益はセグメント間の内部売上収益を含みます。

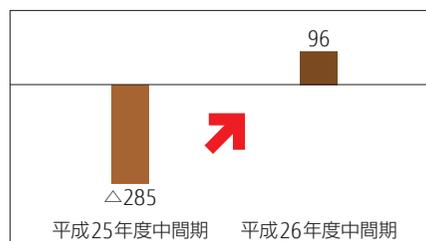
\* 「その他／消去又は全社」には、全社費用(基礎的試験研究などの戦略費用および当社グループ経営に係る共通費用)のほか、次世代スーパーコンピュータ事業などが含まれております。

セグメント別営業利益 (単位：億円)



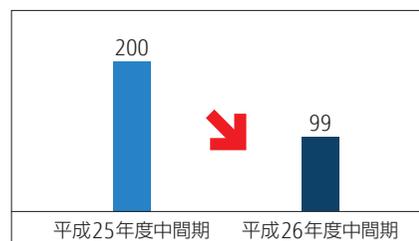
テクノロジーソリューション

● システムインテグレーションおよびサーバは、前年同期にあった大型システム商談の反動による減収影響があったことに加え、北米向け光伝送システムは、通信キャリアの光伝送システムに関する投資が端境期に入ったことによる減収影響がありました。さらに、新規ビジネス対応などの先行投資を進めたほか、前年同期に欧州子会社の退職給付制度の一部バイアウトに伴う一時的な利益計上があったことにより減益となりました。



コピキタスソリューション

● パソコンは、第1四半期まで続いたOSの製品サポート終了に伴う買い替え需要が第2四半期は減速し、上期合計の販売台数は前年同期より減少しましたが、新旧モデル共に販売価格が安定的に推移したほか、コストダウンを推進したことにより、採算性が改善しました。  
● 携帯電話は、前年度に実施した構造改革による効果や、品質安定化による対策費用の減少、コストダウンなどにより大幅に改善しました。



デバイスソリューション

● LSIIは、減収影響があったものの、前年度に実施した早期退職優遇制度などによる固定費削減効果や円安効果によりほぼ前年同期並みとなりました。  
● 電子部品は、円安効果や通信半導体会社清算に伴う開発費負担の軽減効果はありましたが、半導体パッケージの減収影響や価格競争激化の影響に加え、前年同期に国内子会社の退職給付制度の改訂に伴う一時的な利益計上があったことにより減益となりました。

# TOPICS

## 平成26年度中間期のトピックス

本中間報告書では、成長戦略の概要と、その実現に向けた当中間期までの取り組みについてご紹介いたします。

### 1 企業向けICT領域の拡大

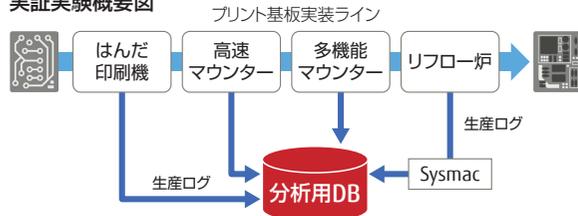
当社グループは、ICT\*の力で、企業のお客様のビジネス革新に貢献してまいります。変化する時代の経営判断、新しいものづくり、新たな価値を生み出すマーケティングなど、企業のお客様の売上・利益に直結する分野において、**ビッグデータ\***などを活かした新たなソリューションを提供してまいります。

#### 具体的な事例

##### オムロン様にて、ものづくりビッグデータ分析の実証実験を開始

オムロン様は草津工場にて、プリント基板表面実装ラインの品質向上と生産性改善のために、ビッグデータ分析の実証実験を開始いたしました。当社はラインの各装置からログデータを収集する仕組みを構築するとともに、当社がもつビッグデータ分析の豊富なノウハウをもとに、生産状況をリアルタイムに把握するためのデータ分析を行います。

#### 実証実験概要図



\* Sysmac：工場の設備や機械の動きを制御するオムロン様のコントローラ

### 2 新たなICT活用領域の拡大

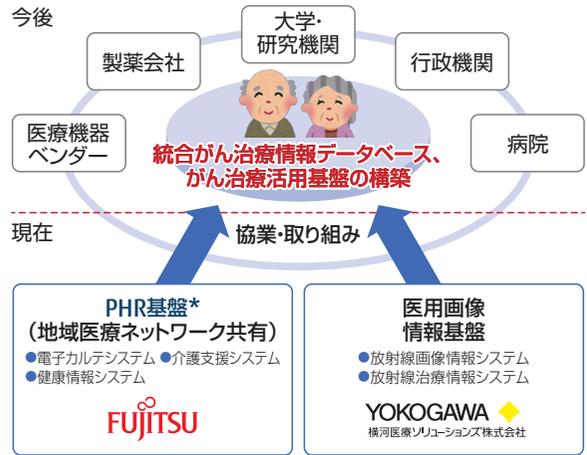
当社グループでは、ビジネス分野にとどまらず、健康・医療、交通・車、食・農業など社会的課題をICTの力で解決する新たな取り組みを進めております。このうち、健康・医療の分野では、健康増進、重症化予防、疾患の早期発見、個別化医療など次世代の健康・医療の実現にICTの利活用を検討しており、昨年12月には推進組織「未来医療開発センター」を設立するなど注力しております。

#### 具体的な事例

##### 横河医療ソリューションズと未来医療分野で提携

当社は、横河医療ソリューションズと未来医療分野における新規事業創出で提携するとともに、同社に対して資本参加いたしました。今後のがん患者の増加に伴います重要となってくることが予測される放射線治療分野などにおいて、共同で研究開発にも取り組み、ICTを活用した新たなサービス提供の検討等も進めてまいります。

#### がん治療情報統合基盤構築への取り組み案



### 3 グローバルでのビジネス領域拡大

当社グループでは、持続的な成長を目指すため、グローバルに共通なサービス、ソリューションの強化に取り組んでいます。

#### 具体的な事例

##### エアバス様のRFID商談を獲得

エアバス様は、全航空機の部品の正確な管理と**トレーサビリティ\***を実現するため当社の金属対応**RFID\***ラベルタグおよびソリューションを導入することとなりました。従来品より柔軟性や薄さを強化した新ラベルを提供しており、新ラベルと関連ソリューションは本年より全世界で販売を開始いたしました。



本年4月には、世界の地域を超えて均質なサービスをタイムリーに提供するため、世界中の拠点に在籍するサービスデリバリー部隊を統括する「グローバルデリバリー部門」を新設するなど体制の整備も進めています。

#### 用語解説

**ICT (Information and Communication Technology)**：情報通信技術のこと。

**ビッグデータ**：大量かつ多種多様なデータのこと、それらを活用することで新たな価値を生み出すことができると注目されている。

**PHR (Personal Health Record) 基盤**：健康、医療、介護全般の情報を統合するヘルスケアデータベースのこと。

**トレーサビリティ**：追跡可能性のこと。本稿では航空機部品の設計・製造から修理、廃棄までの数十年のライフサイクルの全過程が追跡できる状態にあることを指す。

**RFID (Radio Frequency Identification)**：RFIDタグと呼ばれる媒体に記憶された人やモノの個別情報を、無線通信によって離れた位置からの読み書き(データ呼び出し・登録・削除・更新など)を可能とする技術。